2023.6.23

case 04

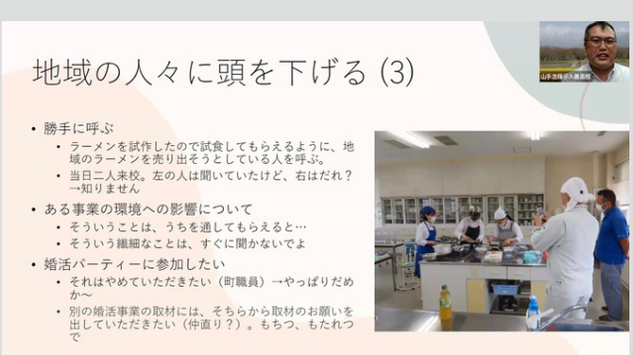
「生徒が暴走!?」のしくじりから学ぶ

探究学習の中にしばしば取り入れられるフィールドワーク。でも、「どのように実施するとよいのか」や「これで本当に何か得られるのか」という疑問や不安を抱く先生は多いと思います。 今回は『「生徒が暴走！？のしくじりから学ぶ』と題して、富山県立入善高校(以下、入善高等学校)にて、観光ビジネスコース主任を務める山手浩輝先生にご登壇いただきました。文化人類学を専攻し、フィールドワークを主とした学習活動を実践された経験から、地域と先生、生徒と学びの間に生じたしくじりを紹介していただきました。
入善高校観光ビジネスコースは、隣接校との再編統合により移管。しかし、入善高校のある地域は観光産業が盛んでないこと。予算はついているが、実際にどれくらいの費用が必要なのかもわからなかったこと。周囲の先生からも理解を得るのが難しい中での実施だったといいます。一からのスタートとなった、山手先生の実践には、３つの特徴があります。

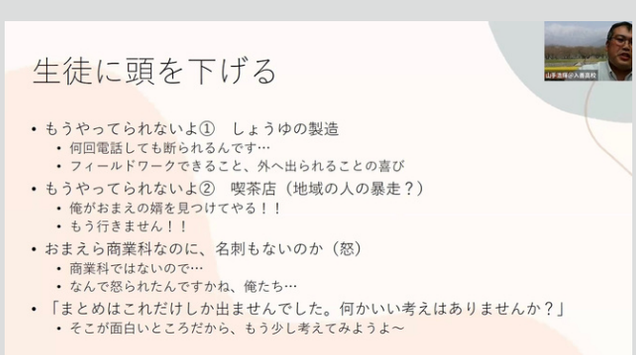
❶相手の立場を考える（複数の立場からみた他者視点）
❷短期的な成果や結果、効果を求めない（生涯の学びにするという長期的な視点）
❸トラブルや学びをフォローするために様々な手段をもつ（リスクマネジメントの視点）

まず、フィールドワークを実施するにあたり、相手のことを考えて、学校が地域を消費しない、地域も学校を消費しない関係を築いていくことが大切だといいます。地域に対して何ができるのか？を考える一方で、地域に対して何をしない方がよいのか？を考えることで、長期的な関係を実現していく。地域からは「取材され、高校生に知ってもらえて嬉しい！」「高校生からアイディアを貰えるのは嬉しい！」と言われる一方で、「今年も同じ時期に取材して、本当に大丈夫なのか？「毎年アイディアを持ってこられても、困らないのかな？」などを学校が考える。また、生徒に対しても「大人が地域の魅力を伝えることで、果たして本当に地域の魅力を感じているのか？」を考えるなど、相手に寄り添うような問いを持って、フィールドワークを設計したようです。
また、フィールドワークの目的は、成果を出すのではなく、地域を眺め、新しい視点を獲得していくことだといいます。今この瞬間ではなく、大学進学"後"や、就職活動時の選択、将来的に地域で暮らしたり、関わったりする際の経験値になるようにと考え、短期的で安易な問題を解決させない、フィールドワークをしたときはトラブルで終わるかもしれないが、トラブルを通して長期的に学びを得ていく。フィールドワークの目標はあくまでも、地域にあるものを“見つめる”こと。では、どんなトラブルが起こったのでしょうか。

・生徒が取材をする際に、いきなりネガティブなことを質問してしまい、事業者が返答に戸惑い、後々クレームを受けてしまった。生徒も聞きたいことが聞けず終いに。
・カフェを取材した際、マスターとのやり取りの中で、生徒のプライベートに踏み込んでしまい、生徒が“あんなことまで言われたくなかった”“もう行きたくない”と言ってきてしまった。
・学校に外部の方を招く機会に、全ての人を把握しようとしていたが、実際には把握していない人が混ざってしまっていた　など



資料❶



資料❷

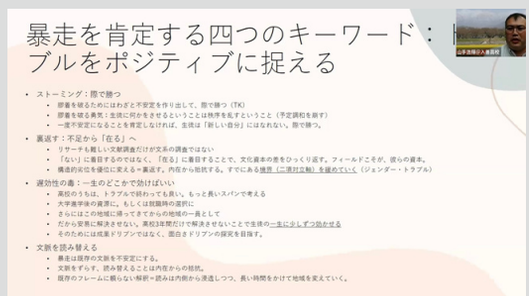
これらのトラブルに対してどんなフォローをし、学びに繋げていったのでしょうか。例えば、

・クレームに潔く頭を下げる（トラブルは起こるし、それがそもそも学びの材料だという認識をもつ）
・視点を変える問いを投げる（カフェで嫌な思いをしたけれど、他の人はカフェをどうして利用し続けているのだろう？）
・普段から地域も学校も関わり合うことで、様々な人の目が届くようにしておく

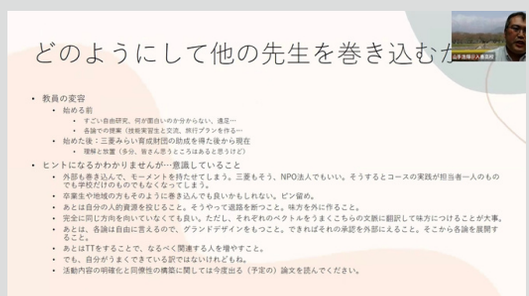
また、先ほど述べた❶〜❸の視点で地域や生徒に接していくやり方は、学校の先生たちに対しても同じです。進路指導部などを経験し、他の先生が大切にしていることを理解する。先生方への協力を求める時に「全部やるので、とりあえず一緒に来てほしい」と、時間と空間を共有し、馴染んでもらいながら長期的に理解してもらう。説明とは異なる伝え方や、バトンを渡す準備をじわじわとしておく。など。

山手先生は長期的な視点で子どもたちの学びを設計しようとし、トラブルをリスクと捉えていない。まさに「しくじりから学ぶ」を実践しているといえます。

資料❸



資料❹



資料❺

例 しくじりメモ

・ありのままを眺め、新たな視点獲得のためのフィールドワーク

・トラブル＝長期的な視点でみると学びの種

・理屈ではなく、時間と空間を共有し「馴染んで」もらうこと

Speaker

Mr. しくじり 山手 浩輝 先生

富山県立入善高等学校 観光ビジネスコース主任

文化人類学を専攻し、博士課程で学ぶ。富山県内の公立高校に勤務し、元々はケアワークに関する人類学的な考察を視野に活動。入善高校観光ビジネスコースの主任になるとともに、人類学的なフィールドワークを取り入れることをテーマに実践。